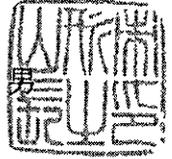


河道第 120 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長様

山形市長 市川 昭



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付 国道企第37号で依頼ありましたみだしのことについて、別紙のとおり回答いたしますので、よろしく願いいたします。

○地域に実情に合わせた費用便益評価を

道路の中期計画策定のなかで、最新の将来交通需要推計(H17センサス)を適用して単純に見直せば、道路整備の判断基準となるB/Cが1.2以下の路線が数多く出ると考えられます。しかし、山形県の広大な県土には、山間地などにも多数の住民が生活しており、費用が便益を上回っても必要な道路というものが存在します。

たとえば、山間地の住民にとって緊急の患者を都市に搬送する際、高規格幹線道路等を通行して地域の拠点病院などに短時間で搬送しなければ生命にかかわるケースも想定されます。

地震や災害などの際に全国から来援する緊急援助隊の通行や、救援物資の輸送などに高規格幹線道路をはじめ道路はなくてはならないものです。

高規格幹線道路は、繋がってはじめて、その機能を果たすもので、中期計画の策定にあたっては現在計画されている路線については、B/Cの課題はあるとしても計画通り整備する必要があります。

また、当県は、県土の76%が特別豪雪地帯に指定されている日本有数の豪雪地帯であり、雪に強い道路整備が必要です。狭義の費用対効果だけで判断することなく、広域的な地域の振興・開発・安全の視点を十分配慮し、地域の実情に合わせて道路整備を進めていくことが必要だと思われまます。

現在のB/Cの考え方は、全国画一的な基準で評価しており、この手法では結果的には地方が切り捨てられてしまうことになります。それぞれ違う地方の実情を踏まえた国民の安心安全に配慮したB/C分析手法の改善を強く要望します。

○現状

・高速交通ネットワークの構築

山形県は、高速交通ネットワークから取り残されております。高速道路の整備率は49.8%と全国42位で、計画の半分にもとどいておりません。現在、他県と高速道路で繋がっているのは宮城県のみで、福島県境は新直轄方式で施工中ですが、開通は当分先のことです。東北中央道の秋田県境はいまだ予定路線であり、日本海沿岸東北自動車道の秋田・新潟県境はまだ基本計画区間にすぎません。地域高規格道路(新潟山形南部道路・石巻新庄道路)は新潟県境・宮城県境ともいまだ調査区間という状況にあります。

・環日本海構想

近年、中国やロシアは新興経済国群と呼ばれ順調な経済成長を見せており、これに伴いロシア・中国・韓国などと貿易をする上で日本海側港湾の重要度が増しています。本県には酒田港があり重要港湾に指定されております。

また、ここ数年、東北地方には大規模な自動車工場の建設計画や電気産業の工場進出などが続いています。

これらの工場で生産された様々な製品が県内を通過し、酒田港から東アジアやロシアに輸出され、様々な輸入品が酒田港を經由して県内や県外に流通していくこととなります。

○課題

高速交通ネットワークの構築や環日本海構想などを実施していく上で高規格幹線道路・地域高規格道路が未整備で分断されていることが大きな課題となっております。

とくに、現在、山形県の東西交通の要は、山形自動車道・国道 112号・国道 47号などですが、当県は全国有数の豪雪地帯であり、特に国道 47号は豪雪や事故などで通行止めになることがあります。

物流にとって、迂回を強いられコストがかかってしまっは致命的です。高規格幹線道路や地域高規格道路などの整備を進め、通行止め等のない安全に通行できる道路が必要です。

高規格幹線道路や地域高規格道路は、産業立地や農林水産品等の流通等地域経済への効果、救急医療や高次医療施設へのアクセス性の向上、災害時の避難・復旧・広域援助など、その波及効果は絶大なものがありますが、現状の分断されている道路では、その効果がまったく不十分であるといわざるを得ません。

全国的な人口減少の流れの中で、特に地方ではその進展が速く、経済の衰退をまねき、地域社会の活力が損なわれつつあります。とりわけ、首都圏への若年層の流出が目立ち、地元に残りたくても雇用機会に恵まれないため都会に就職せざるを得ない者や、都会に進学してそのまま就職する者が多くなっております。所得の格差は、そのまま生活水準に反映され、地域間格差につながっております。

若者も高齢者も地元でいっしょに働ける地場産業の振興や、企業の競争力強化、また、地域間の交流促進のため道路がもたらす効果は大きいものがあります。

今後は、地域の魅力を最大限に活かした戦略的な地域づくりを進めるために、限られた資源を有効に活用し、自然豊かで美しい環境を守り、情報・文化を活発に発信するまちを目指し、さらに住み良いまちづくりを目標としていきます。

人口減少や、厳しい都市間競争の時代のなかで、生き残っていくためには、豊かな自然や歴史を守り育てながら、新たな技術や産業を生み出す力強いまちとして、産業・経済を発展させていかなければならないと考えております。市街地と郊外や集落の連携を強化し、それぞれの魅力の相乗効果により、山形らしさを活かした次世代へ誇れるまちにしていきたいと考えております。

そのためには、最も基本的な社会基盤である道路網の整備が不可欠です。道路はネットワーク化されてはじめて効果を発揮するものであり、地域に誇りを持ち、若者が住んで夢を持てる力強いまちづくりのため、高規格幹線道路ネットワークの整備は本県にとって最も重要であると考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④
山形県山形市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・高速交通ネットワークの構築	・高規格幹線道路・地域高規格道路の整備 東北中央自動車道	産業立地 物流の効率化による地域経済の活性化 救急医療のアクセス性向上 観光振興	
・安心安全の確保	・国道112号の整備 霞城改良 山形市～中山町間の新ルート of 整備 ・国道13号の整備 大野目交差点改良	渋滞損失時間の軽減 歩行者(通学路)・自転車の安全確保等 事故抑止効果 二酸化炭素排出量の削減	
・			